

Ⅴ 障害者支援施設(施設入所・生活介護・短期入所) ひまわり自立支援センター 令和2年度 事業報告

令和 3年 3月 31日
支援課長 五月女

尚史

1 基本方針

(1)基本理念に基づいて、利用者の安心・安全を第一とした生活を送れるような支援に努めた。

2 利用者状況

(1)定員と現員及び年齢構成

<定員 52名 現員 48名 欠員 4名>

性別 \ 年齢	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	計
男	0	0	6	26	4	1	0	37
女	0	0	3	6	2	0	0	11
計	0	0	9	32	6	1	0	48

(平均年齢 44.3歳)

(2)障害支援区分

性別 \ 区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	未判定	計
男	0	0	0	2	16	19	0	37
女	0	0	0	2	6	3	0	11
計	0	0	0	4	22	22	0	48

(平均支援区分 5.38)

(3)療育手帳

性別 \ 手帳	㊤	A	B	C	計
男	20	10	7	0	37
女	3	4	4	0	11
計	23	14	11	0	48

(4) 身体障害者手帳

性別 \ 等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	手帳無	計
男	0	0	1	0	0	1	0	35	37
女	0	0	0	1	0	0	0	10	11
計	0	0	1	1	0	1	0	45	48

3 事業報告

基本方針に基づき、以下の支援を実施した。

(1) 利用者支援

1) 個別支援計画書は本人、保護者等への聞き取りアセスメント等、一連の過程を経て作成した。また、作成時期については、各利用者を年間で割り振り、各時期に支援計画会議を実施して計画を作成した。作成した個別支援計画書に基づき、各利用者に適切な支援を提供することに努めた。コロナ禍の影響で支援計画会議に保護者等の同席は昨年より少なくなってしまった。また、事故と疾病により、死亡者2名を出してしまったことを報告しなければならない。

2) 健康状況に関して、利用者の状況により、体温、脈、血圧、食事量、水分量、排泄量等の状況を観察し、異常値が確認された際は、早めに通院対応をした。発熱者に対しては、できるだけ早い段階で他利用者とは隔離をして過ごしてもらうようにした。コロナ感染者を出すことなく済んだ。

① 入退院状況

氏名	病 名	期 間	病 院 名
N.Tさん	窒息による救急搬送	4月07日～09日	深谷日赤病院
W.Aさん	右手第五指 基節骨粉碎骨折	4月20日～22日	本庄総合病院
Y.Iさん	大腸がん術後検査	4月13日～15日	TMG あさか医療センター
T.Tさん	胃がん	6月29日～7月02日	藤岡総合病院
T.Tさん	胃がん	7月22日～8月03日	石心会病院
K.Nさん	胆管炎	1月07日～19日	本庄総合病院

N.Tさん 尿取りパットを口に含み窒息し、死亡(死亡事故として県へ報告)

T.Tさん 胃がんの発見時ステージⅣ。腹膜播種で手術、治療できず。

緩和ケア移行予定中に死亡(死亡届として県へ報告)

② 通院状況

科 目	内 科	心 精 療 神 内 科 科	外 科	整 形 外 科	脳 外 科	皮 膚 科	眼 科	耳 鼻 科	泌 尿 器 科	婦 人 科	歯 科	計
男	28	352	104	9	2	45	11	11	51		244	857
女	10	135	13	17	0	12	5	0	0	0	55	247
計	38	487	117	26	2	57	16	11	51	0	299	1104

③ 主な医療機関

清水クリニック	くげづか診療所	辻クリニック
中村外科医院	本庄総合病院	皆光園障害者歯科診療所
藤岡総合病院	春山眼科医院	服部クリニック
生坂医院	岡病院	本庄駅前病院
五十嵐整形外科	深谷中央病院	伊勢崎市民病院
本庄市休日急患診療所	埼玉医科大	ベニアック(訪問歯科) 等

④ 健康診断・委員会等

実 施 事 項	実 施 日	実 施 事 項	実 施 日
医務委員会・給食委員会	5月13日	医務委員会・給食委員会	11月27日
健康診断	7月10日	内科検診	実施できず
インフルエンザ予防接種	10月14日	医務委員会・給食委員会	2～3月予定

(2) 日中活動等の状況

コロナ感染拡大に伴い、また職員体制の課題も解決できていないことによって、作業活動はじめ行事等予定していた活動はできない状況であった。しかしながら、外泊も外出もできないことで利用者のストレス解消、もしくはできる範囲での楽しみの提供を行った。10月は「運動強化月間」として、『ストップ！ベッドと仲良し スタート！中庭運動』というスローガンの下、1日1回は全員中庭に出て、ウォーキングを実施した。

1)作業活動

① 活動内容等

班	利用者数	活 動 内 容
受託班	6	屋外剪定・除草等作業等・清掃活動・軽運動・ドライブ・爪きり
煎餅班	7	掃除・軽運動・ドライブ・DVD 等自由活動・爪切り
自販機班	19	棟内缶回収・缶つぶし・整容・軽運動・ドライブ・DVD 等自由活動・爪切り
コサージュ班	8	軽運動・ドライブ・DVD 等自由活動・爪きり
あすなろ班	11	ゴミ回収・軽運動・DVD 等自由活動・爪切り

② 作業班別奨励金(単位 円)

	受託班	煎餅班	自販機班	コサージュ班	あすなろ班	計
金 額	222,400	40	186,239	3,360	0	420,720

利用者平均 8,765 円/年

③ 販売先、納品先等

販 売 品	販 売 先 ・ 納 品 先 等
アルミ缶	(株)UACJ深谷サービス回収
コカコーラ商品(お茶、ジュース等)	自動販売機 (自立支援センター内、シルクドーム内)

④ 社会活動

活 動	活 動 ・ 外 出 先 等
ドライブ(軽食付き)	伊勢崎方面・深谷方面・児玉方面・藤岡方面等 ミスタードーナツ・中華まん・たいやき・マクドナルド

※4、5月は特別な副食を提供(ピザ、マクドナルド等)

※7、8月はお弁当(フライングガーデン)を購入してのドライブを実施

※10月ドライブ先の公園にて運動を実施

⑤ 行 事及びその他の日中活動等

月	行 事 名
4 月	訪問美容
5 月	フラワーアレンジメント・訪問美容
6 月	訪問理容
7 月	お別れ会・訪問美容
8 月	

9月	訪問理容(2日間)
10月	お別れ会・訪問美容
11月	センター祭り・訪問理容
12月	訪問理容・クリスマス会・年忘れ会
1月	初詣・訪問理容
2月	訪問理容
3月	訪問美容

※訪問理容(ジェイビーワン)

(3) 施設管理と環境の整備

1) 整理整頓に努め、安全で快適な生活環境を提供する事に努めたが、破損・故障等に対して、改修・改善が追いつかない現状があった。また、今年度は8月に「4S 運動月間」を計画したが、スローガンを作成できずに実施する事となり中途半端な形であった。

①整理整頓・環境の整備

内 容	目 的
全館清掃	安全で快適な生活環境の改善
玄関、職員通用口消毒及び検温の実施(継続中)	新型コロナウイルス及び感染症予防策
面会・外出・外泊の制限	新型コロナウイルス及び感染症予防策
1日2～3回以上の施設内の消毒	新型コロナウイルス及び感染症予防策

2) 点検及び改善・補修等

①点検及び検査等

実 施 事 項	実施日・頻度
施設全体及び各棟・共有スペース安全自主点検	毎月1回
防火設備点検	年2回
AEDの点検	毎日及び月1回
防災用水の入れ替え	3ヶ月1回
厨房職員 細菌検査	毎月
煎餅作業班利用者及び支援職員 細菌検査	年2回(健康診断時、1月)
厨房職員 ノロウィルス検査	年2回(10月、3月)
業務用冷蔵庫・冷凍庫 保守点検	年2回
検食用冷凍庫・製氷機・消毒保管庫・軟水機 保守点検	年2回
食器洗浄機・洗浄機ガスブースター・自動軟水機 保守点検	年2回
煎餅室及び厨房 空間処理消毒、厨房換気扇3カ所清掃	5月23日
レジオネア菌の検査	11月06日
煎餅室及び厨房 空間処理消毒、休憩室クリーニング等	11月18日

②設備・備品等による整備

整 備 状 況	目 的
---------	-----

施設内・棟内の建具・壁の修復と補修	安全で快適な生活環境の提供
中庭・駐車場等敷地内の除草・剪定	環境整備の一環
厨房の屋上 防水工事	安全で快適な生活環境の提供
厨房 空調機交換	安全な食事提供に必要な為
厨房入口ドア 改修工事	安全な生活環境及び食事提供に必要な為
調理場 流し台排水修理	安全な食事提供に必要な為
ステンレス棚、検収台の購入	安全な食事提供に必要な為
受水槽 補給水・埋設配管漏水修理	安全な施設管理の為
渡り廊下天井 2カ所改修	安全で快適な生活環境の提供
B2棟 2号室、3号室内装改修工事	安全で快適な生活環境の提供
防犯カメラシステム 追加2カ所	安全で快適な生活環境の提供
危険防止センサー 2カ所購入	安全で快適な生活環境の提供
洗濯室 空調機交換	安全な職場環境の為
受水槽外面発錆部剥離補修・外面塗装	安全な施設管理の為
ウォーターサーバーの設置	快適な職場環境の為
施設内ドアストッパーの修理・交換	安全で快適な生活環境の提供
軒樋清掃	安全で快適な生活環境の提供
A2棟、C2棟、厨房水栓交換	安全で快適な生活環境の提供
浄化槽蓋交換	安全な施設管理の為
芝刈り機購入	利用者の活動の為、快適な環境の提供
公用車 冬用タイヤ 3台分	安全で快適な生活・活動の確保のため
防護服・ゴーグル・フェイスシールド	新型コロナウイルス感染予防対策
公用携帯電話機種変更	職員の業務改善
携帯内線電話 修理	職員の業務改善
ケース記録システム ライセンス 20 台分	職員の業務改善
タイムリコーダー 2 台	労働基準監督署より指摘事項改善 (令和2年 10 月)
残留塩素測定器 2 台交換	安全で快適な生活環境の提供

(4)危険防止とリスク管理

1)職員体制

昨年度に引き続き、年度当初から夜勤体制が困難であった為、法人内で協力体制を取って頂き、夜勤者を確保した。協力体制は9月まで続いた。

10 月以降はセンター施設職員だけで夜勤体制は取れたが、日中支援を含め、適切な夜勤回数とするには十分な職員体制とはならなかった。

2)事故報告・ヒヤリハットの活用

事故報告書及びヒヤリハットについては、職員会議や支援会議にて検証等を行い、情

報の共有をはじめ今後、防止、予防していけるように努めた。また、危機管理委員会にも報告し、危機管理委員会の中でも検証されるようにした。また、6月を「誤与薬ゼロ月間」として、『STOP 誤与薬 ご:ごっくん確認よ:よし、OK や:薬袋確認 く:く～間違えた』、2月は「怪我ゼロ月間」として、『1 あわてず、走らず、ゆっくりと』『2 クツはかかとを入れてはいてね』『3 かいだんは手すりを使いましょう』とスローガンを掲げて、間違えない、怪我させない対応に努めたが、一年を通すと、以下のように発生してしまった。

① 事故報告

種 別	件 数	備 考
怪 我	12	県への報告 2件
異食・誤嚥・窒息	1	死亡事故として報告
無届外出	1	
器物破損	28	
火災報知器 誤報	3	
異物混入(食事など)	2	
食事提供間違い	2	
薬関係	25	県への報告 3件
車中取り残し	0	
その他	8	

PCR 検査実施に関する県への報告 3件

② ヒヤリハット

種 別	件数
怪 我	17
誤飲・誤嚥	18
薬	37
器物破損	10
異物混入	25
窓・玄関など未施錠	21
食事提供間違い	7
車両関係	2
危険物放置・落下	7
その他	29

3)防災訓練、緊急事態への円滑な対応

実 施 事 項	実 施 日
防災訓練(早朝想定)	6月01日
防災管理委員会	6月17日
緊急連絡 伝達訓練	8月25日
非常用 使捨て食器購入	9月18日
非常食の購入	10月07日

救急蘇生法訓練(AED 使用 窒息への対応)	12 月 23 日 12 月 24 日
非常用 飲水購入	12 月 23 日
緊急連絡 伝達訓練	1 月 18 日
防災訓練(夜間想定)	1 月 27 日
防災管理委員会	1 月 28 日
防災訓練(日中想定)	3 月 10 日

(4)地域との連携

1)短期入所と日中一時利用の受入

実施事業	利用日数
短期入所	0 日
日中一時利用	0 日

2)実習生とボランティアの受入

	受入件数	受入れ延べ人数
実 習 生(保育実習)	4	4
ボランティア	0	0

※新型コロナウイルス感染拡大に伴い、受入れは困難であった。
実習生については、緊急事態宣言の影響により2月～3月予定の実習は中止となった。

3)社会参加と地域交流

利用者の楽しみ、活動の一環として、旅行やひまわりフェスティバルを予定していたが、新型コロナ感染拡大の影響により実施はできず、また、地域との交流も少なくなってしまった。

実 施 事 項	日 程
障害者アート企画展	12 月 2 日～6 日
本庄市 障害者作品展(web)	12 月～3 月
アートセッションin本庄(ｲﾝｽﾀ)	12 月

(5)職員の人材育成

新型コロナ感染拡大に伴い、中止になってしまった研修が多かった

1)外部研修

研 修 名	日 程	参加者
-------	-----	-----

「令和２年度サービス管理責任者等指導者 養成研修」の資料 作成のための撮影	８月２８日	２名
管理者キャリアパス研修	９月１６日、２４日	１名
チームリーダーキャリアパス研修	１０月０９日、１６日	１名
安全運転管理者等講習	１０月２４日	１名
中堅職員キャリアパス研修	１１月０９日、１６日	１名
新型コロナウイルス感染症対策 BCP セミナー	１２月１６日	２名
緊急施設長会議	１月２６日	１名
強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)講義	２月０９日、１６日	２名
強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)演習	３月０９日、１８日	２名

2)内部研修

研 修 名	日 程	参加者
評価者研修	１０月１４日、３０日	３名
虐待防止研修	１１月１１日	１３名
救急蘇生法訓練(AED 使用、窒息への対応)	１２月２３日、２４日	２１名
虐待防止研修	１月１３日	７名

VI 生活困窮者に対する相談支援事業 (彩の国あんしんセーフティーネット事業) 令和2年度 事業報告書

令和 3年 3月31日
所 長 高梨徳郎

1 基本方針

生活困窮者に対して身近な地域の相談機関になり、市社会福祉協議会と協働し経済的援助を含めた即応性のある対応を図るとともに、継続的な支援を行います。

- (1) すべての生活困窮者を対象としました。
- (2) 市社会福祉協議会と協働し重層的な支援体制を構築しました。
- (3) 迅速(原則、即日または翌日のうち)に支援を開始しました。

※本事業による相談支援は平日対応とし、可能な範囲とします。

- (4) 寄り添い型の相談とし、必要な場合には経済的支援を行いました。経済的支援とは現物給付をいい、担当相談員が買い物や支払い等に同行するなどをします。※支援の際は原則として、相談員と社協職員との2名体制。
- (5) 関係機関と協働して支援しました。

2 支援の状況

対象者	支援内容	金 額
Aさん	食糧・生活支援	23,771円
Bさん	生活支援	9,900円

※令和2年度は2名の方に支援を行い、対応は継続しています。

3 まとめ

今年度は2名の方に支援を行いました。新型コロナウイルスの状況により年度当初は支援依頼があっても対応は行いませんでした。状況が一旦落ち着いた際は食糧支援などについては相談員が購入し、自宅へ届ける対応を行いました。

Ⅶ 障害福祉サービス事業所(共同生活援助)

ひまわりのいえ 令和2年度 事業報告

令和3年 3月31日
管理者 沼田美智子

1 基本方針

法人の「基本理念」に基づき、その人らしい安心した生活が送れるよう支援し、利用者の自立と社会経済活動への参加を促進するために、必要な支援を行います。

- (1)利用者またはその家族の意志及び人格を尊重し、常に当該利用者の立場に立ったサービスの提供に努めます。
- (2)地域及び家庭との結びつきを重視し、市・障害福祉サービスを行う者その他の保健医療サービスまたは福祉サービスを提供する者との連携に努めます。
- (3)障害による生活の不自由さをサポートする事によって、地域における一人の生活者として、その生活全般にわたる支援を行います。
- (4)障害者の生活基盤を確かなものとするために、年金・公的扶助・福祉サービスなどを有効活用し、地域活動の拠点作りを行うことでノーマライゼーション理念の達成を目指します。

2 利用者状況

(1)定員と現員及び年齢構成(ひまわりのいえふじたは利用者がいないため省略)

ひまわりのいえ ことぶき(利用定員:6名 利用現員:6名)(男性:1名 女性:5名)

性別 \ 年齢	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	計
男	0	0	0	0	0	1	0	1
女	0	2	1	2	0	0	0	5
計	0	2	1	2	0	1	0	6

(平均年齢 42.8 歳)

2)障害支援区分状況

ひまわりのいえ ことぶき

性別 \ 区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	非該当	計
男	0	0	1	0	0	0	0	1
女	0	2	1	2	0	0	0	5
計	0	2	2	2	0	0	0	6

(3)療育手帳

ひまわりのいえ ことぶき

性別\手帳	㊤	A	B	C	非該当	計
男	0	0	1	0	0	1
女	0	1	4	0	0	5
計	0	1	5	0	0	6

(4)身体障害者手帳

ひまわりのいえ ことぶき

性別\等級	1等級	2等級	3等級	4等級	5等級	6等級	非該当	計
男	0	0	0	0	0	0	1	1
女	0	0	0	0	0	0	5	5
計	0	0	0	0	0	0	6	6

3 事業報告

(1)利用者支援

1)利用契約に基づき、利用者個々に即した「個別支援計画」を策定し、生活習慣の確立や社会性の向上に向けた支援を実施した。個別支援計画会議の開催にあたり、各利用者に加えて、保護者・関係機関の出席を頂いた。

2)共同して生活できる様に支援をした。(入退所状況)

ひまわりのいえ ことぶき

性別	定員	令和元年度	入居	退居	令和2年度
男	—	0	0	0	1
女	—	0	0	0	5
計	6	6	0	0	6

3)就労に向けて、他の事業所と連携し個々の利用者に則した支援を行った。

ひまわりのいえ ことぶき

性別\他事業所	就労	就労継続B	地域活動支援センター	ひまわり	計
男	0	1	0	0	1
女	2	2	1	0	5
計	2	3	1	0	6

4)健康管理状況

日頃から利用者の健康観察をおこなうとともに定期的に健康診断を実施して、疾病の早期発見・早期治療および予防に努めた。

	内科	精神科 心療内科	外科	整形外科	耳鼻科	皮膚科	泌尿器科	眼科	婦人科	歯科	計
	0	12	15	15	0	0	0	1	0	0	43
	29	33	5	2	7	5	3	2	5	14	105
計	29	45	20	17	7	5	3	3	5	14	148

5)自立した生活を送れるように、個々の利用者に即した支援を行うため「ひまわりのいえ」会議を毎月実施した。また、各関係機関と調整し、必要に応じてサービス担当者会議を 5 回開催した。

(2)施設・設備の維持管理

1) 職員による定期的な施設内安全点検を実施した。又、消防設備業者による定期点検を実施し業者を通じて消防署に報告をした。

(3)利用者等のニーズ把握及び対応

- 1)随時利用者からの相談等の受付対応をした。
- 2)苦情・要望ポストを玄関に設置し、苦情・要望が出しやすい環境を作った。

(4)危機管理に対する対応

1)利用者の生命の安全を第一に、体調を管理できるよう、本人・家族との連携を図り日々の健康チェックを実施し、必要に応じて通院の支援をした。

2)危機の発生を予防し、事故防止に努めた。与薬マニュアルに沿って誤薬防止に努めた。

3)防災訓練を年2回実施し、避難体制を充実させ地域との連携を強化し、緊急事態の円滑な対応に努めた。非常時に備え発電機を設置した。

(5)職員の人材育成

1)利用者支援に関わる専門的な知識・技術の向上を図るため、毎月一回ひまわりのいえ会議を行い、利用者の「個別支援計画」について説明して職員間での共通理解を得るように努めた。

2)ひまわりのいえ会議で、虐待防止・権利擁護に対する知識・意識を高めた。

3) 必要な動画配信 WEB 研修を受講した。

4) 今年度採用した契約職員に対して、利用者支援に関わる基本的な姿勢・必要な支援について付き添い指導・育成をした。

Ⅷ 障害者地域活動支援センターデイケアひまわり 令和2年度 事業報告書

令和 3年 3月 31日
所 長 高梨徳郎

1 事業方針

- (1) 利用者またはその家族の意志及び人格を尊重し、常に当該利用者の立場に立ったサービスの提供に努めます。
- (2) 地域及び家庭との結びつきを重視し、市、障害福祉サービスを行う者その他の保健医療サービスまたは福祉サービスを提供する者との連携に努めます。
- (3) 障害による生活のしづらさ等をサポートすることによって、地域における一人の生活者として、その生活全般にわたる支援を行ないます。
- (4) 障害者の生活基盤を確かなものとするために、年金・公的扶助・福祉サービスなどの有効活用、そして地域活動の拠点づくりを行なうことでノーマライゼーション理念の達成を目指します。

以上を事業の基本方針としてその達成に努めた。

2 利用者状況

(1) 利用状況

(単位:名)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ人数	295	240	312	325	244	268	301	276	313	261	259	324	3,418
開所日数	21	18	21	22	19	19	22	20	23	19	18	23	245
平均人数	14.0	13.3	14.9	14.8	12.8	14.1	13.7	13.8	13.6	13.7	14.4	14.1	13.9

(2) 入退所の状況

- 1)退所者 男性 0名 女性 1名 計 1名
- 2)入所者 男性 2名 女性 0名 計 2名

(3) 健康管理の状況

- 1)入退院の状況 無し
- 2)通院状況 15名

3)使用医院

本庄総合病院	深谷赤十字病院	群馬大学医学部付属病院
昭和大学病院	昭和大学病院歯学部	松澤医院
中村外科病院	寺坂医院	清水クリニック
矢内歯科医院	皆光園(歯科)	東埼玉病院
飯塚歯科医院	愛歯科クリニック	くげづか診療所
吉沢病院	本間医院	前橋日赤病院
埼玉県立循環器・呼吸器病センター		

4)感染症予防対策

- ①施設内感染の場合の対応策を考え、利用者・保護者に協力を求めた。
- ②感染予防のため手洗い・うがい・マスク着用に努めた。また、玄関先に消毒液を設置し、手指の消毒を行なった。
- ③ノロウイルス対応の専用セットを用意した。
- ④新型コロナウイルス感染の対応策を考え、利用者保護者へ協力を求めた。

5)健康把握

- ①通所後に毎日バイタルチェック(体温、血圧、脈拍測定)、体重測定を行ない利用者の健康状況を確認した。
- ②健康診断、歯科検診を実施し利用者の健康状況の確認を行ない必要に応じて二次検診等の促しを行なった。

(4) その他の障害福祉サービス等利用状況

- 1)相談支援利用 計画相談支援 5名
- 2)共同生活援助グループホーム利用者 2名

3 利用者の支援

(1) 作業活動

1)印刷作業

- ①名刺 6,470枚
- ②封筒 13,980枚
- ③年賀はがき 2,031枚
- ④タクシー券 1,180冊

- ⑤その他 パンフレット、障害者作品展カレンダー、ちらしラベル、プログラム、記念誌印刷等

2)手作り作業

- ①ふきん 25セット(2枚入り)
 ②委託販売 まちあい館 ふきん 38セット(2枚入り)
 ③はにぼん販売 ふきん 178セット(2枚入り)
 髪飾り 16個 タオルハンガー 15個

3)受託作業

- ①大栄紙器工業 箱折り・箱詰め等 (14,685箱)
 ②木村商店 線香セット箱詰め(約6,000セット)
 ③タカラニコー テープ貼り等(146,532点)
 ④APJ工房 紐きり(19,770個)
 ⑤障害福祉センター清掃

4)その他

- ①ひまわり通信発行 年4回 1回 約500部発行

5)作業収支状況

(単位:円)

収 入	金額	支 出	金額
印刷 名刺	112,510	用紙	28,979
封筒	447,625	封筒	133,711
年賀状	213,746	インク	56,283
その他印刷	205,981	ラベル	60,996
福祉タクシー券	202,840	名刺台紙	11,500
ひまわり通信	95,065	ハガキ代	134,566
手作り タオル・手作り品	10,340	作業材料	202,673
はにぼん売上	25,200	手作り品材料	9,581
受託 大栄紙器	80,408	備品等	5,553
タカラニコー	440,690	必要経費	351,705
APJ	28,772	カウンター料金	103,665
木村商店	135,500	手数料等	1,980
障害福祉センター清掃	355,855	その他	10,933
注文・イベント販売	0		
その他	35,738		
合 計	2,390,270		1,112,125

6)工賃支給状況

(単位:円)

項目	金 額
年間総支給額	1,347,050
平均支給額(月)	112,254
平均支給額(個人)	6,603

※支給額(個人)は利用者17名換算

(2) その他の活動実施状況

月	主な行事・活動
4月	入所式
5月	
6月	防災訓練
7月	健康診断
8月	
9月	
10月	内科検診・インフルエンザ 予防接種 総合防災訓練
11月	
12月	クリスマス会
1月	成人の祝い
2月	イチゴを楽しむ会
3月	防災訓練 作業反省会

4 地域支援事業

- (1) 新型コロナウイルス感染蔓延のため地域住民との交流は実施せず。
- (2) 見学・作業体験受入 本庄特別支援学校保護者4名

5 職員研修

施設の方針や課題を共有し、利用者に適切な支援を提供できるよう職員会議を定期的に行うとともに、毎日の連絡会を活用し、職員の課題意識を促した。

(1) 内部研修

- 1)月1回
- 2)救急蘇生法講習 10月21日(障害福祉センターにて)

3)虐待防止チェックリスト実施 10月1日

(2) 外部研修

- 1) 9月16、24日 管理者キャリアパス研修
- 2) 12月23日 安全運転管理者講習
- 3) 2月9、16日 強度行動障害支援者養成研修(基礎)1日目
- 4) 3月9、18日 強度行動障害支援者養成研修(基礎)2日目

6 災害防止

(1) 利用者の安全確保のため、日常的の設備構造の状態把握に留意した。常日頃より、火災や地震発生時に備えての意識を高めた。

(2) 防災訓練

6月26日 通常避難訓練、消火訓練

10月21日 消防署立ち会いの下、障害福祉センター合同での総合訓練を実施した。避難経路や避難方法、通報や消火器の使用方法について確認した。また救急蘇生法を実施し、AEDの使用方法等を確認した。

令和3年3月26日 防災意識を高めるDVDを消防署から借用し、利用者・職員で鑑賞後、防災について話し合いを行った。

7 整備状況

(1) 受託作業が多くなり、利用者が動きやすいように、また事故のないように作業室の整理整頓に努めた。

(2) 送迎車整備状況

- 1)定期的な点検を行ない安全な送迎の運行に努めた。
- 2)降雪時に備え冬用タイヤを備えた。

(3) 利用者および職員にて清掃、除草を行ない、環境美化に努めた。

8 まとめ

令和2年度事業計画に則り事業を進めてきました。職員の過失による事件や事故等も発生せず、安心安全な利用者対応を行なえました。

作業活動における工賃の支払いについても、通所奨励金を支払うことにより仕事が出来ない利用者の工賃支給も安定しました。引き続き実施していきます。